



Left-right confusion

先日インターネットで調べものをしていましたら、たまたま面白い記事を見かけました。右と左がわからなくなる「左右盲」という症状に関する記事で、英語名もあり「left-right confusion」と呼ばれるそうです。

この症状は、特別な障がいがある訳ではないのに右と左を感覚的に理解できないハンディキャップだそうで、記事を読み進めていくと、あまりにも私自身の症状に似ているため、興味を持ちました。原因は解明されていないようですが、統計的には「生まれつき左利きの人」と「女性」がleft-right confusionになりやすく、「幼少時に利き手を矯正した場合」に特に顕著になるとのことです。

私の場合、子供の頃に母親に注意されたり、学校での視力検査で苦勞するという程度の支障でしたが（丸の一部が欠けていて右か左か答えていくおなじみのものですが、私の場合せっかく見えていても右と左がわからないため即答できない）、自動車の運転を始めるとこれがかなり致命的な問題となることわかりました。

実際に自動車運転の教習所では、運転技術以上に右折や左折の指示にとまどって苦勞し、最後に受ける検定でも教官の指示とは反対方向にターンしてしまったためアウトになってしまいました。そのため再検定では、手の甲に「右」と「左」を書き込み、教官に笑われながらも無事に合格したことをいまでも覚えています。

このように、日本で生まれ育ち、日本で運転するだけでもいろいろ苦勞していた私が、米国へやってきて更に運転に苦勞することになりました。まず第一におそろしいのが、日

本では「左側通行」なのに対し、米国では「右側通行」であることです。

ワシントンDC首都圏の高速道路は、他州より小さめであると聞きましたが、それでもなかなかの大きさです（写真1）。反対車線との間には中央分離帯がありますので、間違っただけで反対車線を走行してしまう心配がまずないことは救いです。制限速度はありますが、日本よりも高めに設定されているようですし、どんどん速度を上げる車も多いため（警察にかまっている車も見かけます）、通常走行で80マイル／時（時速128kmくらい）がよくある感じでした。

写真のように片側5～6車線くらいある高速道路ですが、日本とくらべて通行方向が逆であるうえに、日本ではほぼ見かけない「一番速く走る車線に合流する＝左側から合流する」というおそろしい入口があるもの大変です。そのような入口から高速に入り、すぐに出口に行きたい場合、すごいスピードでやってくる後続車に注意しながら、右側へ何車線も変更して行かなければなりません。そして、それが、日本だと右側へ行くほど速い車



写真1

線な訳ですが、米国だと反対に遅い車線となる訳です。

また、NO TURN ON RED/TURN ON REDのサインがある交差点にも注意しなければなりません。日本では、基本的に左折でも信号待ちをしなければならず、たまに「常時左折可」の交差点がありますが、さほど混乱する構造にはなっていないと思います。ところが、米国では（少なくとも私の居住するエリアでは）、赤信号でも右折してよいため、後続車の障害にならないようにすみやかに右折しなければなりません。米国に引っ越してきたばかりの日本人は、ほぼ間違いなく赤信号に反応して停止してしまうため、後ろから激しくクラクションを鳴らされるという経験をすることになります。

このように赤信号でも右折してよいのですが、NO TURN ON REDのサインがある交差点では、赤信号では右折できないことになっていたり、更にはNO TURN ON REDの車線とTURN ON REDの車線の両方があったり（写真2）と、さまざまなバリエーションがあることも混乱に拍車をかけます。また、NO TURN ON REDのサインがある交差点には、お決まりのようにカメラが設置されており、赤信号で右折してはいけない交差点なのに右折してしまったということで、写真を撮られ、一週間ほどしてから証拠写真と罰金振り込みチケットみたいなものが送られてくる仕組みとなっています。

第二におそろしいのが、車自体も、日本の右ハンドルと異なり、米国では左ハンドルになっていることです。細かいことを言いますと、ワイパー（windshield wiper）とウィンカー（turn signal）の位置も左右反対です。この記事を書いていて気付きましたが、幸いなことにアクセルとブレーキの位置は同じですので、アクセルとブレーキを踏み間違えて事故を起こす心配はなさそうです（老化したら話は別ですので、その場合には免許返納が必



写真2



写真3

要ですね）。

このように悪銭苦闘する自動車運転ですが、友人がプレゼントしてくれた左右認識図（写真3）を頼りに週末ドライブを日々の楽しみにしています。タイトルのleft-right confusionとは少々話がそれましたが、左右認識を必須要件とする道路の仕組み、自動車運転について、左右認識に問題のある者から見た視点で記事を書かせて頂きました。

筆者紹介



加藤奈津子（かとうなつこ）

世界各地に展開するUnited GIPsの米国グループ事務所 United IP Counselors, LLC 代表。米国パテント・エージェント。京都大学法学部卒業。ワシントンDCのジョージワシントン大学大学院にて米国知的財産法の修士号を取得するとともに、パテント・エージェント受験資格を得るに十分な技術系の単位を米国の大学にて取得。趣味はスポーツ観戦。ワシントンDC近郊在住。